

田中一昭委員提出資料

平成15年8月5日

意見

「幻の財務諸表」を巡る日本道路公団記者会見（平成 15 年 7 月 25 日）に対する疑義

論点 1

資料は、現段階では確認されていない。（田宮監察室長）

9月の固定資産税を出すために民営化委員会に作業を依頼された話だが、「1か月程度で出せる範囲のもの」ということで、事務局と打ち合わせして、その時に、勉強で使っていた資料をベースにやれば1か月で出来るが、正味の資産を表すものではないが、1か月で出来ると条件だとそれしかない」と事務局と相談して、一年分足して計算したと聞いている。（平井民営化総合企画局長）

公団は資料が確認されていないという一方で、平井民営化総合企画局長は平成 14 年 10 月の固定資産税把握のためのデータについて、そのうち『幻の財務諸表』作成時に用いたデータを平成 12 年度分に用いているという主旨の発言をしている。このことは、道路公団が勉強会とするデータが組織的に引き継がれ、しかも公式に委員会に提出されたことを示すものである。そのデータが確認されない理由については、道路公団は今後本委員会に対して明らかにすべきである。

論点 2

上司に対してプロジェクト・チームの実務者がどういう風に上司に説明したのか。資料も配付してやったのか、こと細かく聞いたが、上司は天地神明に誓って受けとっていないといっている。(田宮監察室長)

「幻の財務諸表」をベースとした本委員会における平成 14 年 10 月の固定資産税把握のための資料は、民営化推進委員会提出資料であり、役員、総裁まで話があがっているはずである。

また、当該固定資産税把握のための資料は、報道が先行したため、詳細な作成経緯の調査を民営化推進委員会事務局から指示されている。

公団はこの時点で詳細な調査を実施し、総裁から委員会へ報告しており、役員、総裁が勉強会などの経過を知らないということは極めて不自然であり、ましてやこれだけ問題となったものを担当調査役が知らなかったというのは明らかにおかしい。

この時点で「幻の財務諸表」について公団内で存在が明らかになっていたとすれば、これまでの藤井総裁の国会答弁は虚偽答弁となるのではないか。